

ポロトミンタラの駅北観光インフォメーションセンター

祝

来場者50万人達成

東京からのご夫婦に記念品贈呈

50万人目となったのは初めて白老を訪れた東京都町田市の小山修平さん(31)、菜摘さん(28)ご夫婦。星野リゾート「界ポロト」への宿泊とウポポイを目的に来町したと言います。額入りミニルウンペや特産品の詰め合わせなど記念品が贈られました。修平さんは「駅に到着し、寒さに負けて立ち寄っただけでまさかこんなことがあるとは!とにかくびっくりしました。一気に白老が好きになりました。白老牛を食べたいと思っていましたが、頂いた特産品に入っていてとてもうれしいです」と笑顔で話していました。同センターはウポポイの開業に先立ち、町内の新たな観光拠点として2020年4月に開業。指定管理者は白老観光協会。コロナ禍による休業も経験しながら、アイヌ民族文化を含めた特産品の販売や案内、観光情報の発信に努めています。(12月17日)



虎杖小3・4年が校区の海産物ロードをマップに
題して「たらこ屋さんマップ」!

二次元コードのフル活用がミソ

お勧めの一品/おいしい食べ方/取材の感想も紹介

マップ(B4判)はカラー印刷で、虎杖浜海産物ロードにある8店舗各店の外観写真とともに、住所、電話番号を紹介。各店ごとの二次元コードを読み取ると、お勧めの品をはじめ、おいしい食べ方や取材の感想などが写真付きで発信しています。



製作は教員らの「子どもたちが自分の育った地域のことを知らない。サケやタラコが採れることさえも知らない子どもも多く、自分の育つ地域のことを知り誇りに思って成長してほしい」という願いを背景に、3、4年生8人の児童が白老未来学の一環として取り組みました。

「虎杖浜たらこ屋さんマップ」贈呈式



下調べから始め、各店舗を3、4人ずつのグループに分かれそれぞれ取材。二次元コードから見る事ができるページは、児童たちそれぞれの個性が出ていて、見るだけでも楽しいページに仕上がっています。

マップは役場に贈呈し、児童7人は大塩英男町長らの前で、それぞれ大変だったことや楽しかったことなどを披露。マップで紹介した「たらこアイス」などおいしい食べ方で盛り上がりました。児童らは「まさか町長に直接手渡すことができるとは思ってなくてうれしいです。半年かけてみんなで作ったので、どんどん広がってほしい」と話していました。

マップは役場をはじめ、各店舗と観光インフォメーションやスーパーなど町内はもちろん、東京の飲食店にも置いてあります。

給食トレーイラスト募集 最優秀賞の石見さん(白翔中2年)

「給食 おいしいん」



経年劣化により更新する給食トレー(盆)に描くイラスト募集で、最優秀賞に選ばれた石見瑠亜(るあ)さん。

石見さんは白老らしいイメージを考える中ですぐに浮かんだのがアイヌ文化と白老牛。その二つをベースに「給食をおいしく食べられたら」と、アイヌ民族衣装をまとった牛さんが「うまい!」と叫んでいるような図柄を発案したということです。

右下、約10cm四方にイラストが描かれた新しいトレーが、令和6年度から町内全小中学校で使用されます。(1月号P5参照)



2024年 白老町70周年